

職員による自己評価

A 業務改善

・利用者からの意向を検討し、業務の目標設定と振り返りの時間を確保し改善に取り組んだ。

B 児童への支援内容

・個別支援計画に則った療育が展開できた。時間的な制約がある中で振り返りや新たなプログラム開発を効率的に行った。

C 関係機関との連携

・幼稚園保育所と日ごろから連携を取ることができた。利用児が在籍する園の保育士や幼稚園教諭の見学受け入れも積極的に行った。重症心身障害児、医療的ケア児は未対応である。他部署とともにあり方を検討している。

D 保護者への説明責任等

・契約の説明は新型コロナ感染拡大防止のため集合形式を避け個別面談時に説明している。従前のように内容すべての説明はできていない。しかし、個別支援計画については丁寧な説明を進めている。

E 非常時等の対応

・緊急時マニュアル等は整備されており職員も把握できている。疾患、アレルギー等の把握もアンケートによって把握できている。利用者への避難経路の説明も定着した。身体拘束については現在、組織全体で整備している。

保護者による評価

A 適切な支援の提供

・個別支援計画に沿った支援については、満足している、臨機応変にしているという意見をいただいた。しかし、わからないという意見も 6.9%あり説明不足を感じた。

B 保護者への説明等

・「子供の事を凄く考えてくれている。それだけでとても嬉しい」「療育に通う親は心が弱っているので、寄り添ってくれるだけでとても助けられる」とのご意見をいただいたが、「もう少し今後の事を解りやすく教えてほしい」という要望があり検討していく。「母子分離の時間帯に保護者同士やスタッフに悩みを聞いてもらったりアドバイスをいただけて良かった」とのご意見があり保護者同士がつながりあえる時間の大切さを感じた。

C 非常時等の対応

・避難ルートの確認や通年クラスでの避難訓練の説明では 93.1%が満足しているが、実際の訓練の実績等はわからないという意見もあった。

D 満足度

・満足 86.2%、どちらとも言えないもしくは不満足 13.8%となった。短期間クラスについては慣れた頃あるいは慣れる前に終わってしまったのでもう少し長く通いたいとの意見をいただいた。

事業所内での分析

【共通点】

- ・ニーズに合った個別支援計画が作成され、良い発達につながっている。
- ・保護者への説明機会を増やし充実させている。
- ・保護者プログラムで分離した場合は、子どもの様子をきちんと伝えられている。
- ・保護者プログラムは保護者同士の意見を聞ける場でもあり勉強になっている。
- ・保護者同士の懇談ができる時間を設定することはむずかしい。

【相違点】

- ・保護者懇談会の時間を設定したが時間が短いため満足度につながっていない。
- ・慣れるまでに終わってしまった、やっと慣れたころに終わってしまったという意見がある。そのため期間を長くしてほしいとの要望がある。
- ・保護者プログラムは充実しており、勉強になったが、もう少しクラスでの活動や様子について職員からのフィードバックだけでなく、実際に見る機会が多くあるといいとの意見があった。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・保護者学習会
早期療育、初期療育の場面で、年齢に合わせてシリーズ化した保護者学習会を実施している。
- ・低年齢から実施する早期療育
家庭生活において適応力向上につながる療育を展開できる。
- ・たくさんのお子さんに対応
クール制のため期間が短くなるが、たくさんのお子さんが利用できる。
- ・職員集団が小規模なため少しの時間を利用してスタッフミーティングができる。
- ・地域支援課に所属しているためソーシャルワーカーと協働し地域への対応ができる。

事業所の改善点

- ・利用者と職員のコミュニケーションについて
保護者と職員間で話ができる時間をさらに充実する。
- ・在籍園との連携について
新型コロナウイルス感染症の影響が予想されるが可能な限り在籍園との連携を強化し地域での生活を支援する。
- ・クラスの開催回数について
現在のクール制(4期)の見直しおよび早期初期療育の開催回数(現在11回)の妥当性を吟味し検討する。
- ・クラス活動への保護者の参加
開催回数の見直しとともにクラス活動への保護者の参加や参観について検討する。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

貴重なご意見をいただき光栄に思います。利用者サービスの質の向上のため、常に向上心を持って進んでまいります。開催回数が少ないとのご意見については、現状の仕組みでは解決しにくい面があるため、川崎市とともに新たな発達支援の体制整備を検討し見直していきます。

「新たな体制整備」「懇談会の充実」をキーワードとして、当事業所の利用者と地域のための優しさあふれる療育の向上に努めてまいります。ありがとうございました。

事業所名 川崎西部地域療育センター児童発達支援事業所

担当者 地域支援課長 大野伸之